（参考）平成24年度農林水産省農作物農林認定品種の特性概要

《農林認定》　　水稲「おてんとそだち」

１．育成機関
宮崎県総合農業試験場　作物部

２．来歴
育成期間：平成 12 年～ 21 年　（10 年間）
交 配 親：南海 149 号×北陸 190 号
旧系統名：南海 166 号

３．主要特性
・高温登熟性に優れ、玄米外観品質が優れる。
・耐倒伏性が強く、多収、極良食味である。
・豊かな太陽の恵みをいっぱい浴びて育ったおいしいお米であることをイメージして命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・「ヒノヒカリ」より稈長が 11cm 短く、耐倒伏性が強い。
・「ヒノヒカリ」より 7％多収である。
・「ヒノヒカリ」より出穂期は 3 日、成熟期は 4 日早く、暖地では“中生の早”に属する。
・いもち病真性抵抗性遺伝子“*Pia*”、“*Pii*”を持つと推定され、葉いもちほ場抵抗性は“中”、穂いもちほ場抵抗性は“やや弱”である。

（２）品質特性
・高温登熟条件で背白粒、基部白粒の発生が少なく、高温登熟性に優れ玄米外観品質が良い。
・「ヒノヒカリ」並の極良食味である。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：暖地の普通期栽培地帯
普及見込み：宮崎県で奨励品種に採用（H24 普及面積　175ha）
　　長崎県で奨励品種に採用見込み

６．品種登録出願状況
平成 23 年 6 月 27 日　出願
平成 23 年 10 月 7 日　出願公表

７．予算区分
指定試験事業
「暖地の普通期栽培向け、極良食味、多収の水稲品種の育成」

系譜図

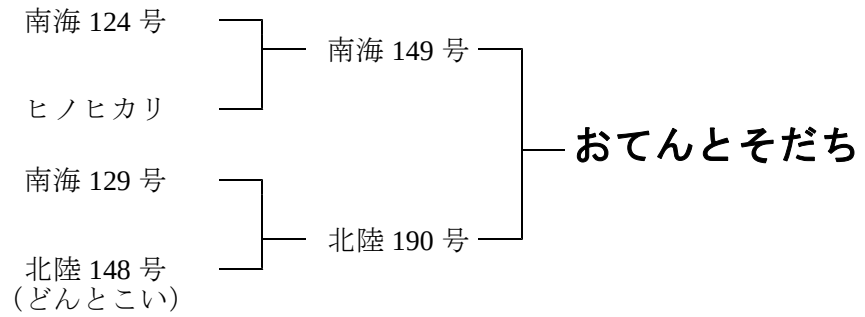


表１　生育特性

（育成地　平成 16 ～ 23 年）

品種名	出穂期（月.日）	成熟期（月.日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）	精玄米重（kg/a）	千粒重（g）
おてんとそだち	8.19	9.27	73	19.3	376	54.1	21.5
ヒノヒカリ	8.22	10.1	84	19.6	390	50.7	21.9
日本晴	8.14	9.22	79	20.1	386	51.2	23.1

品種名	高温登熟性	耐倒伏性	いもち病抵抗性		
			真性	葉いもち	穂いもち
おてんとそだち	強	強	*Pia,Pii*	中	やや弱
ヒノヒカリ	弱	中	*Pia,Pii*	やや弱	やや弱
日本晴	中	中	*Pia*	中	中

注）高温登熟性は背白粒、基部白粒の発生程度により判定

表２　品質特性

（育成地　平成 16 ～ 23 年）

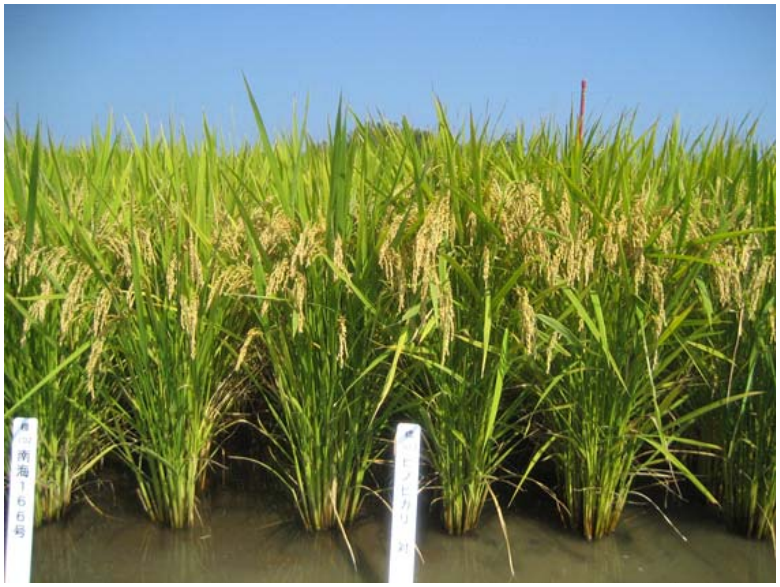
品種名	玄米[1)]品質	検査[2)]等級	食味[3)]総合値	玄米ﾀﾝﾊﾟｸ質含有率(%)	白米ｱﾐﾛｰｽ含有率(%)
おてんとそだち	4.1	4.1	-0.08	6.5	15.8
ヒノヒカリ	4.9	7.0	0.00	6.5	16.9
日本晴	4.7	6.0	-0.49	6.7	19.0

注 1)1(上上)～ 9(下下)の 9 段階評価
注 2)1(1 等の上）～ 10(規格外)の 10 段階評価
注 3)食味官能試験における場内産ヒノヒカリに対する値

２枚目：写真



草姿



立毛状況



籾（上段）及び玄米（下段）

（いずれも左：「おてんとそだち」、右：「ヒノヒカリ」）

《農林認定》　　水稲「ミルキーサマー」

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
作物研究所　稲研究領域（稲育種）

２．来歴

育成期間：平成14年～20年（7年間）
交 配 親：和系243／ミルキークイーン
旧系統名：関東IL7号

３．主要特性

・「ミルキークイーン」型の低アミロース米。
・温暖地では「ミルキークイーン」より早生、沖縄県では「ミルキークイーン」より晩生で多収。

４．特性概要

（１）生育特性

・出穂期は茨城県（育成地）では「ミルキークイーン」より13日、「あきたこまち」より3日早生の“極早生”。沖縄県では「ミルキークイーン」より3日晩生。
・稈長は育成地では「ミルキークイーン」より約10cm短く、「あきたこまち」並、穂数は「ミルキークイーン」とほぼ同等。沖縄での稈長は「ミルキークイーン」と同じかわずかに長い。
・玄米重は、育成地では「ミルキークイーン」よりわずかに少なく、「あきたこまち」よりやや多収。沖縄では「ミルキークイーン」より10%多収。
・耐倒伏性は“やや弱”で、いもち病抵抗性は“弱”。

（２）品質特性

・玄米の外観品質は「ミルキークイーン」並の“中の中”
・「ミルキークイーン」と同じ低アミロース遺伝子*Wx-mq*を有し、アミロース含有率は「ミルキークイーン」に比べて同等かわずかに低い。
・炊飯米の食味は、粘りがあり、「ミルキークイーン」と同等かやや劣るが「あきたこまち」に優る。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：沖縄県における二期作栽培地帯、暖地・温暖地の早期栽培地帯
普及見込み：沖縄県で平成23年度から奨励品種採用。平成27年度には沖縄県の水稲作付面積約920haのうち50haに作付予定。
千葉県の早期栽培地帯においても平成24年から数ha作付開始。

６．品種登録出願状況

登録年月日　平成23年3月22日　登録番号20745

７．予算区分：委託プロ（ゲノム育種、新ゲノム、気候変動）

系譜図

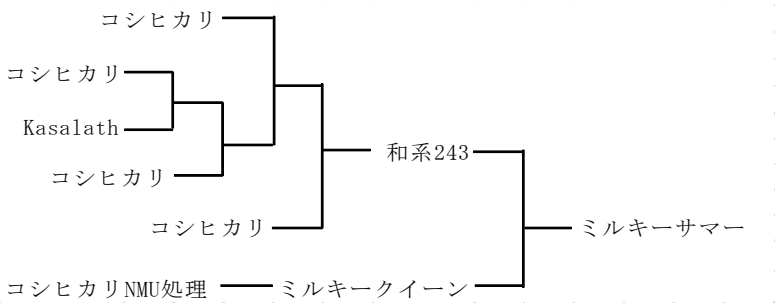


表１　生育特性

品種名	出穂期（月.日）	成熟期（月.日）	稈長（cm）	穂数（本/㎡）	精玄米重（kg/a）	比較比率（%）	千粒重（g）	耐倒伏性	葉いもち抵抗性
＜育成地（茨城県）:平成18～20年＞									
ミルキーサマー	7.25	8.29	84	379	53.2	107	21.1	やや弱	弱
あきたこまち	7.28	9.04	83	347	49.9	100	21.0	中	中
ミルキークイーン	8.07	9.16	95	371	54.5	109	20.3	弱	弱
＜沖縄県農業研究センター名護支所:平成19～20年＞									
ミルキーサマー	5.25	6.26	72	394	47.5	95	20.1	やや弱	-
ひとめぼれ	5.27	6.28	74	447	50.2	100	21.4	中	-
ミルキークイーン	5.22	6.23	70	428	43.3	86	20.8	やや弱	-

表２　品質特性

品種名	玄米品質	食味	アミロース含有率(%)
＜育成地（茨城県）＞			
ミルキーサマー	4.9	−0.28	8.6
あきたこまち	4.5	−1.31	16.4
ミルキークイーン	4.0	0.13	9.1
＜沖縄県農業研究センター名護支所＞			
ミルキーサマー	4.3	0.28	8.5
ひとめぼれ	4.0	0.00	17.6
ミルキークイーン	4.5	0.52	8.8

注）玄米品質：1（上上）～5（中中）～9（下下）の9段階評価。育成地は平成18～20年の平均値、沖縄は平成19～20年の平均値。
食味：育成地はコシヒカリを基準とした平成17～20年における7回の食味官能試験総合評価の平均値、沖縄は「ひとめぼれ」を基準とした平成20年における食味官能試験総合評価（-5（不良）～5（良））。
アミロース含有率：育成地は平成17～20年の平均値、沖縄は平成20年。



ミルキーサマーの草姿
（左：ミルキーサマー　中央：あきたこまち　右：ミルキークイーン）



ミルキーサマーの圃場での草姿（茨城県つくばみらい市）
（左：ミルキークイーン、中央：ミルキーサマー、　右：あきたこまち）



ミルキーサマーの籾及び玄米
（左：ミルキーサマー、中：あきたこまち、右：ミルキークイーン）

《農林認定》　水稲「たちすずか」

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
近畿中国四国農業研究センター 水田作研究領域

２．来歴
育成期間：平成 13 年～ 22 年　（10 年間）
交 配 親：中国 147 号(後の「クサノホシ」) ×極短穂
旧系統名：中国飼 198 号

３．主要特性
・穂が極端に短い茎葉多収型品種
・発酵に必要な糖含量が高い
・耐倒伏性が極強である
・「たちすずか」の名称の由来は、まっすぐに立つ草姿と、この品種が植えられた水田に吹くさわやかな風を表現したもの

４．特性概要
（１）生育特性
・茎葉乾物重は「クサノホシ」より 55%多収で、全乾物重は 5%多収
・出穂期は「クサノホシ」より 4 日遅く、瀬戸内平坦部では“極晩生”
・稈長は「クサノホシ」より 10cm 程度長く、穂長は 5cm 程度短く、穂数は多い。草型は“茎葉多収型”
・耐倒伏性は“極強”で直播栽培にも適する
・いもち病真性抵抗性遺伝子型は不明、白葉枯病抵抗性は“極強”、縞葉枯病は“罹病性”、穂発芽性は“難”

（２）飼料特性
・発酵に必要な糖含量は「クサノホシ」より著しく高い
・NDF（中生デタージェント繊維）消化率、TDN 含量は「クサノホシ」より高い
・「たちすずか」を給与した乳牛の乳量は「クサノホシ」に比べて多く、体重の減少量は小さい

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：関東以西地域
普及見込み：山口県で奨励品種に採用(平成 24 年 6 月)、許諾件数 8 件、広島県、岡山県、鳥取県、山口県を中心に約 300ha 栽培見込み（平成 24 年度）

６．品種登録出願状況
平成 22 年 3 月 31 日　出願
平成 22 年 6 月 14 日　出願公表
平成 24 年 9 月 25 日　登録

７．予算区分　交付金、えさプロ（温暖地西部における直播栽培に適した発酵粗飼料用稲品種の育成と高消化性育種素材の開発）

系譜図

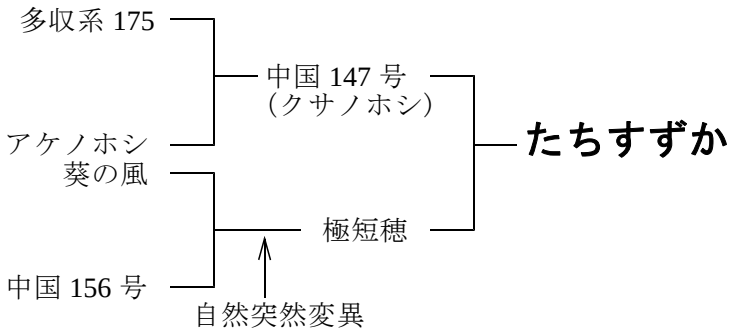


表１　生育特性

（育成地　平成19～21年度）

品種名	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m^2)	耐倒性	全乾物重 (kg/a)	茎葉乾物重 (kg/a)	籾乾物重 (kg/a)
たちすずか	9.02	121	16.9	301	極強	187	164	23.2
クサノホシ	8.29	110	22.0	250	やや強	178	106	72.1
リーフスター	9.04	112	22.4	223	極強	178	129	49.1

表２　飼料特性

品種名	糖含量 (%)	NDF消化率 (%)	TDN含量 (%)	乳量 (kg/日/頭)	体重変化量 (kg/頭)
たちすずか	10.2	53.1	59.0	45.7	−36
クサノホシ	1.7	45.1	55.5	39.5	−65

注）糖含量は、育成地における平成19～21年の平均。NDF消化率とTDN含量は、広島県立総合技術研究所畜産技術センターにおけるめん羊を用いた消化試験成績(平成19年)、 NDFは中性デタージェント繊維。乳量と体重変化量は、広島県立総合技術研究所畜産技術センターにおける泌乳前期のホルスタイン6頭、稲発酵粗飼料混合率25% を用いた試験成績（平成23年)。



たちすずかの草姿（左：クサノホシ、右：たちすずか）



たちすずかの籾および玄米
（左：たちすずか、中：クサノホシ、右：リーフスター）



たちすずかの穂相
（上：たちすずか、中：リーフスター、下：クサノホシ）

《農林認定》　小麦「つるきち」

１．育成機関
北海道立総合研究機構北見農業試験場研究部麦類ループ

２．来歴
育成期間：平成 12 年～ 23 年　（12 年間）
交 配 親：北海 257 号（後のキタノカオリ）× 97067
旧系統名：北見 85 号

３．主要特性
・低アミロ耐性が「キタノカオリ」より優れる。
・中華めん適性が「キタノカオリ」並に優れる。
・コムギ縞萎縮病抵抗性に優れる。
・品種名は「中華めんにするとなめらかで適度なコシがあり、ツルッと食べられる。食べた人に“吉”があることを祈念して」付けられた。

４．特性概要
（１）生育特性
・成熟期は「キタノカオリ」より 1 日早く、子実重は同等である(表 1)。
・穂発芽性は"中"で「キタノカオリ」より優れる(表 2)。低温登熟条件でのフォーリングナンバーは「キタノカオリ」より明らかに高く(表 3)、「キタノカオリ」よりも低アミロ耐性が優れる。
・コムギ縞萎縮病抵抗性は"中"で「キタノカオリ」より優れる(表 2)。
・耐倒伏性は"かなり強"で「キタノカオリ」並に優れる(表 2)。
（２）品質特性
・「キタノカオリ」と同じ硬質小麦で、粉質は硝子質である。60 %粉粗蛋白質含量は「キタノカオリ」並に高い(表 4)。
・中華めん官能検査の点数は、製めん 1 日後の色、ゆで直後の食感、ゆで 7 分後の食感が、道産小麦の中で中華めん適性に優れる「キタノカオリ」並である（表 4)。中華めん適性は「キタノカオリ」並に優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：北海道地域
普及見込み：北海道で優良品種に採用（普及見込み面積　1,500ha）

６．品種登録出願状況
平成 24 年 5 月 28 日　出願
平成 24 年 10 月 23 日　出願公表

７．予算区分
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「食料自給率向上と高品質安定生産を実現する小麦・大麦品種の開発と普及促進」

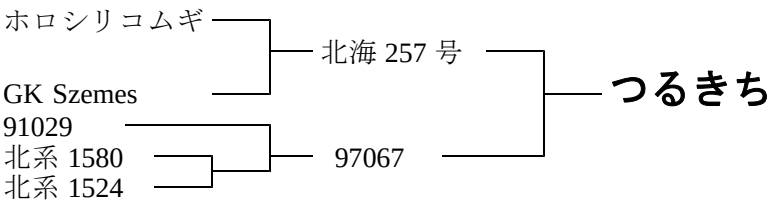
系譜図


表１　生育特性（北見農試、平成20～22年播種）

系統名または品種名	成熟期（月日）	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度	冬損 程度	子実重 (kg/a)	ｷﾀﾉｶｵﾘ対比 (%)	容積重 (g/l)	千粒重 (g)	原粒蛋白含量 (%)
つるきち	7/28	80	9.9	627	0.0	0.8	60.7	100	824	41.5	13.1
キタノカオリ(対照)	7/29	84	9.7	676	0.1	0.3	60.6	100	829	39.6	12.8
きたほなみ(標準・対照)	7/26	87	8.6	836	1.0	0.2	68.1	112	821	33.9	10.5

注)倒伏程度および冬損程度は0:無～5:甚の6段階評価。

表２　障害・病害抵抗性（平成20～22年播種の試験結果から評価）

品種名または系統名	耐倒伏性	耐雪性	うどんこ病	赤さび病	赤かび病	縞萎縮病	穂発芽性
つるきち	かなり強	中	強	やや強	中	中	中
キタノカオリ	かなり強	中	強	やや強	中	弱	やや易
きたほなみ	強	やや強	やや強	やや強	中	やや弱	やや難

表３　低温登熟条件におけるフォーリングナンバー(FN)

系統・品種名	平成18年 成熟期	平成18年 晩刈り FN(秒)	平成19年 成熟期	平成19年 晩刈り FN(秒)	平成20年 成熟期	平成20年 晩刈り FN(秒)	平成21年 成熟期	平成21年 晩刈り FN(秒)	平成22年 成熟期	平成22年 晩刈り FN(秒)	晩刈りFN(秒) 5ヶ年平均
つるきち	8/8	393	8/11	411	8/11	368	8/17	494	8/10	395	412
キタノカオリ	8/13	175	8/15	217	8/16	273	8/18	128	8/13	158	190

注1)各材料の出穂期1週間後から人工気象室で低温処理した(平均気温15℃（6～18時：20℃、18～翌6時：10℃）)。
注2)晩刈りは成熟期1週間後の収穫。　注3)FN300秒以下は低アミロ小麦の目安となる。

表４　品質特性（北見農試産、平成20～22年播種）

系統名または品種名	粉質	製粉歩留 (%)	ﾐﾘﾝｸﾞｽｺｱ	60%粉灰分 (%)	60%粉蛋白 (%)	アミロ 最高粘度 (BU)	ファリノグラム Ab (%)	ファリノグラム VV	中華めんの官能検査 色直後 (10)	色1日後 (20)	ホシ1日後 (20)	食感直後 (20)	食味直後 (10)	食感7分後 (20)
つるきち	硝子質	65.9	75.8	0.49	11.9	800	67.4	62	7.4	14.6	13.9	14.2	7.0	13.9
キタノカオリ	硝子質	65.2	74.3	0.51	11.7	322	68.3	58	7.0	14.0	14.0	14.0	7.0	14.0

注)中華めんの官能検査 パネルは北見農試麦類グループ職員5～6名。「キタノカオリ」を標準として評価した。

２枚目：写真

草　　姿



（左：「つるきち」、中央、「キタノカオリ」右：「きたほなみ」）

立　毛　状　況



（左：「つるきち」、右「キタノカオリ」）

穂　及　び　子　実



（左：「つるきち」、中央、「キタノカオリ」右：「きたほなみ」）

《農林認定》　二条大麦「はるか二条」

1. 育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
九州沖縄農業研究センター筑後・久留米研究拠点小麦・大麦育種グループ

2. 来歴

育成期間：平成 11 年～24 年　（14 年間）
交 配 親：羽系 B0080×西海皮 59 号
旧系統名：西海皮 69 号

3. 主要特性

・短強稈で穂数が多く多収で、大粒で整粒収量が極めて高い。
・主要な縞萎縮病ウイルス系統に強く、穂発芽性が難で強い。
・容積重が大きく外観品質が優れ、砕粒が少なく精麦品質が良い。
・普及の展望が遠くまで開ける二条大麦の意から「はるか二条（遥二条)」と命名。

4. 特性概要

(1)生育特性

・並性の二条皮麦で、「ニシノホシ」より早い早生種である。
・短強稈で耐倒伏性は強く、穂発芽性は難で強い。
・主要な縞萎縮病ウイルス系統とうどんこ病に対して複合抵抗性である。
・穂数が多く多収かつ大粒で整粒歩合が高く、整粒収量が極めて高い。

(2)品質特性

・脱粒性が良く、容積重も大きく外観品質が優れる。
・やや軟質で精麦白度が高く、砕粒の発生が少なく精麦品質が良い。

5. 栽培適地及び普及見込み先

適地：温暖地、暖地の平坦地
普及見込み：長崎県で奨励品種に採用予定（普及見込み面積　400 ha）

6. 品種登録出願状況

平成 24 年 11 月 8 日　出願　（第 27568 号）

7. 予算区分

運営費交付金及び農林水産省プロジェクト研究「水田底力プロ」
課題名：胚乳成分を改良した病害複合抵抗性の裸性二条大麦品種の育成

系譜図等

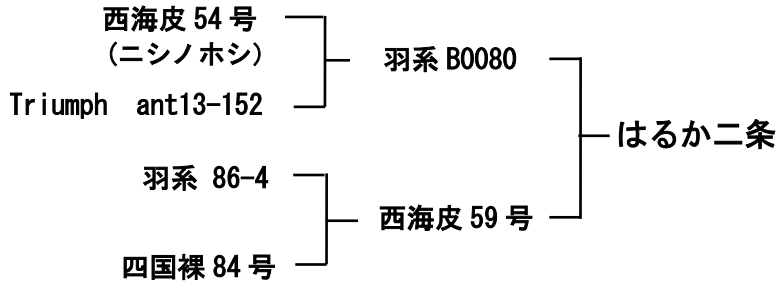


表１　生育特性

（九州沖縄農研センター　2008-2011 年度、広幅播標肥栽培）

品種名	出穂･成熟期（月.日）		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/㎡)	縞萎縮病抵抗性			穂発芽性
						Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型	
はるか二条	3.31	5.14	83	7.0	659	極強	極強	極強	や難-難
ニシノホシ	4.02	5.16	87	7.2	605	極強	極強	極弱	やや易
ニシノチカラ	4.04	5.18	97	7.3	566	極強	極強	弱	やや易

縞萎縮病抵抗性はウイルス系統のⅠ型、Ⅱ型、Ⅲ型に対する抵抗性で、
RR:極強、S：弱、SS:極弱を示す

表２　収量・品質特性

（九州沖縄農研センター　2008-2011 年度、広幅播標肥栽培）

品種名	整粒重 (kg/a)	容積重 (g/L)	千粒重 (g)	外観品質	55%搗精時間（分:秒）	55%搗精白度 (%)	砕粒率 (%)
はるか二条	56.5	755	44.1	上下	10:55	44.6	5.5
ニシノホシ	41.6	724	40.7	上下	10:49	45.2	4.3
ニシノチカラ	41.3	733	42.1	上下-中上	12:41	44.0	6.0

草　姿



左：「はるか二条」、中：「ニシノホシ」、右：「ニシノチカラ」

穂と穀粒



左：「はるか二条」、中：「ニシノホシ」、右：「ニシノチカラ」

《農林認定》　大豆「つぶらくろ」

１．育成機関
地方独立行政法人　北海道立総合研究機構　中央農業試験場
作物開発部　作物グループ

２．来歴
育成期間：平成13～23年　（11年間）
交 配 親：中系371号×十系885号
旧系統名：大豆「中育63号」

３．主要特性
・ダイズシストセンチュウ抵抗性が“強”で、「いわいくろ」、「晩生光黒」より多収である。
・百粒重が「いわいくろ」より重く、「晩生光黒」並の極大粒である。
・「いわいくろ」と同様に煮豆等の加工に適する。
・「つぶらくろ」の名称は、「いわいくろ」、「晩生光黒」の後継として愛される大豆ができることを願って付したものである。

４．特性概要
（１）生育特性
・成熟期は“中生”の「いわいくろ」より1～6日遅い“晩生”である。
・倒伏抵抗性は“強”、わい化病抵抗性は“やや強”、耐湿性（開花期以降）は“中”、茎疫病圃場抵抗性は“強”である。

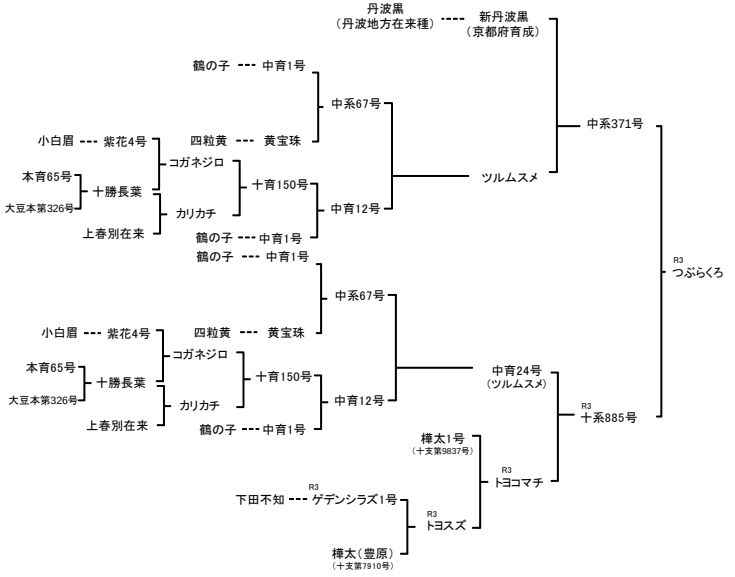
（２）品質特性
・子実の大きさは「晩生光黒」並の“極大の小”で、臍および種皮の地色の色は“黒”である。
・粗蛋白含有率は「いわいくろ」よりやや高く、全糖含有率はやや低い。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：北海道（渡島南部、檜山北部、檜山南部とこれに準ずる地帯）
普及見込み：北海道優良品種に採用（普及見込み面積 300ha）

６．品種登録出願状況
平成 24 年 6 月 6 日　出願
平成 24 年 10 月 23 日　出願公表

７．予算区分
・指定試験事業
・新鮮でおいしい「ブランド・ニッポン」農産物提供のための総合研究
（外観品質の高い煮豆用極大粒大豆品種･系統の育成および高品位収穫技術の開発）
・実用技術開発事業「食料自給率向上を目指した豆類優良品種の育成」

系譜図



※点線は純系選抜
※ R3 はセンチュウレース 3 抵抗性の系統

表１－１　生育特性（普及見込み地帯のべ7箇所平均、平成21～23年）

品種名	成熟期	倒伏程度	主茎長	子実重	標準比	百粒重	品質
	（月日）		（cm）	（kg/10a）	（%）	（g）	（検査等級）
つぶらくろ	10/4	少	78	375	108	54.5	3中
いわいくろ	9/30	少	64	346	100	48.9	3中
晩生光黒	10/8	中	84	307	89	54.9	3下

表１－２　生育特性（育成地、平成21～23年）

品種名	シストセンチュウ抵抗性			わい化病抵抗性	耐湿性（開花期以降）	茎疫病圃場抵抗性
	レース1	レース3	判定			
つぶらくろ	S	R	強	やや強	中	強
いわいくろ	S	S	弱	やや強	中	強
晩生光黒	S	S	弱	弱	中	強

注）Ｒは抵抗性、Ｓは感受性を示す。

表２　品質特性（育成地、平成21～23年）

品種名	子実成分含有率(%)			煮豆加工適性
	粗蛋白	粗脂肪	全糖	
つぶらくろ	43.0	21.3	23.4	適
いわいくろ	42.4	20.7	24.2	適
晩生光黒	42.7	20.4	24.4	適

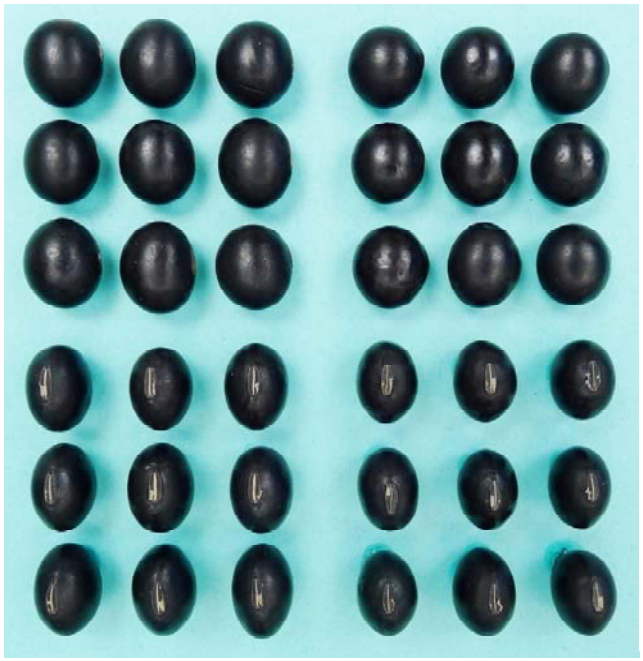
２枚目：写真

草姿



（左：「つぶらくろ」、右：「いわいくろ」）

子実



（左：「つぶらくろ」、右：「いわいくろ」）

《農林認定》　大豆「とよみづき」

１．育成機関

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部　十勝農業試験場　研究部　豆類グループ

２．来歴

育成期間：平成 13 年～ 23 年　（11 年間）
交 配 親：十育 233 号×十系 930 号
旧系統名：十育 249 号

３．主要特性

・豆腐加工適性が優れる。
・低温による裂開粒の発生が「ユキホマレ」より少ない。
・「とよみづき」の名称は、夜空に美しく輝く満月のように品質の良い豊かな大豆をイメージして命名した。

４．特性概要

（１）生育特性

・成熟期、子実重、百粒重は「ユキホマレ」とほぼ同等である。
・低温に対する抵抗性は「ユキホマレ」より強い。

（２）品質特性

・「ユキホマレ」より粗蛋白含有率がやや高く、豆腐破断応力が高い。
・豆乳粘度は「ユキホマレ」並に低く、豆腐加工時の作業性がよい。
・豆腐、煮豆、味噌、納豆に適する。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道（北海道大豆栽培地帯区分のうちⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの地域およびこれに準ずる地帯）
普及見込み：北海道優良品種に採用
（普及見込み面積　6,000ha）

６．品種登録出願状況

平成 24 年 5 月 1 日　出願
平成 24 年 8 月 21 日　出願公表

７．予算区分

・指定試験事業
・新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業
（食料自給率向上を目指した豆類優良品種の育成）
・低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発
（北海道らしい良食味で豆腐加工適性の高い大豆系統の選抜）

系譜図

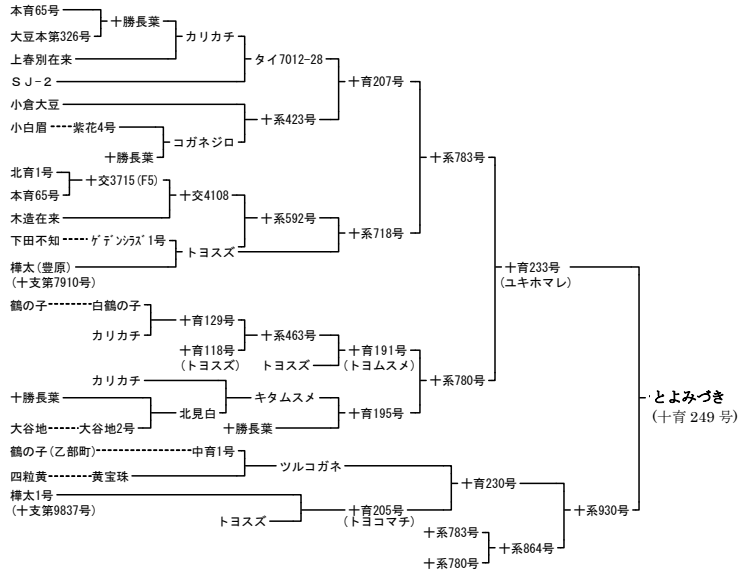


表１　生育特性（育成地、平成21～23年）

品種名	成熟期（月日）	倒伏程度	主茎長（cm）	子実重（kg/a）	対標準比(%)	百粒重（g）	子実品質	裂開粒率(%)
とよみづき	**9.22**	**微**	**69**	**36.4**	**105**	**38.6**	**２中**	**6.8**
ユキホマレ	9.20	微	64	34.7	100	36.1	２下	33.9
トヨコマチ	9.26	少	72	37.8	109	38.7	３上	19.3

表２　病害虫・障害抵抗性（育成地、平成21～23年）

品種名	病害虫抵抗性		低温抵抗性		低温裂開抵抗性	低温着色抵抗性		裂莢の難易
	ｼｽﾄｾﾝﾁｭｳ レース１／レース３	わい化病	開花期	生育期		臍	臍周辺	
とよみづき	**弱／強**	**やや強**	**強**	**強**	**強**	**弱**	**強**	**難**
ユキホマレ	弱／強	弱	やや強	強	弱	弱	強	難
トヨコマチ	弱／強	弱	やや強	やや強	弱	弱	強	易

表３　品質特性（育成地、平成21～23年）

品種名	粗蛋白含有率（%）	粗脂肪含有率（%）	全糖含有率（%）	豆腐破断応力（g/cm²）	豆乳粘度（mPa･s）	加工適性			
						豆腐	煮豆	味噌	納豆
とよみづき	**44.3**	**19.7**	**22.2**	**92**	**26**	**適**	**適**	**適**	**適**
ユキホマレ	42.7	19.9	22.8	73	23	可	適	適	適
トヨコマチ	44.6	19.2	22.5	93	45	可	適	適	適

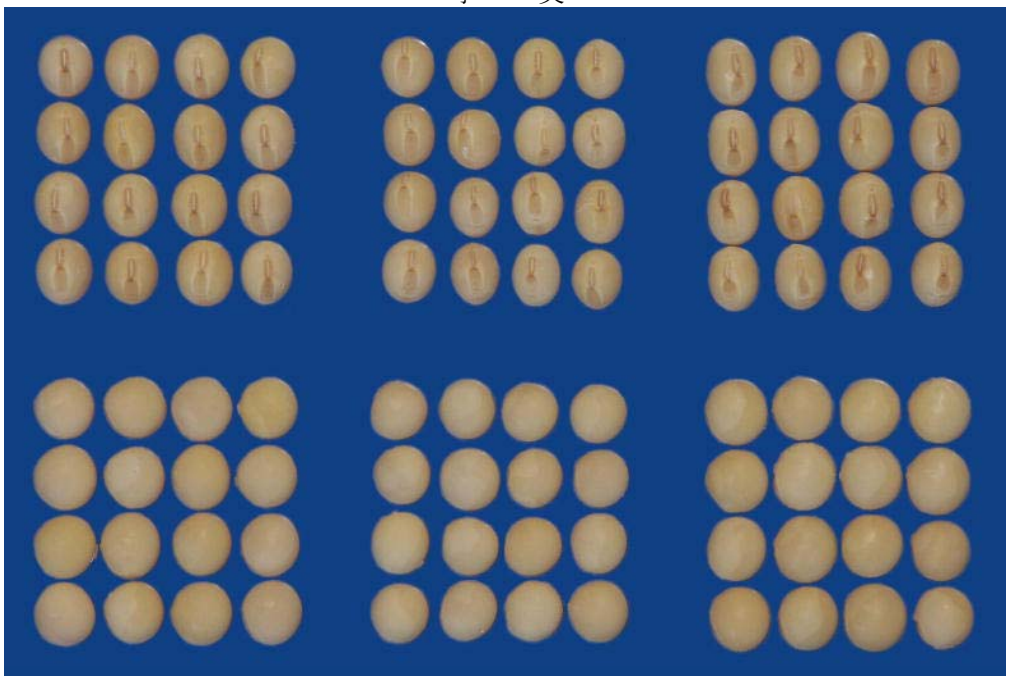
２枚目：写真

草　　姿



（左：「とよみづき」、中：「ユキホマレ」、右：「トヨコマチ」）

子　　実



（左：「とよみづき」、中：「ユキホマレ」、右：「トヨコマチ」）

《農林認定》　　大豆「すずほまれ」

１．育成機関
長野県野菜花き試験場　畑作部
（旧農林水産省大豆育種指定試験地）

２．来歴
育成期間：平成６年～２３年　（１８年間）
交 配 親：東山系Ｒ９０６×東山系Ｕ２４
旧系統名：東山２１７号

３．主要特性
・粗蛋白質含有率が高く豆腐加工適性に優れる。
・倒伏に強く最下着莢節高が高い。
・しわ粒が少なく粒の外観品質がよい。
・ダイズモザイク病に強い。
・収量性が高く“鈴なり”に莢が付き、豆腐の加工適性に優れることから、「すずほまれ」と命名。

４．特性概要
（１）生育特性
・「タチナガハ」よりやや成熟期が遅く、「タチナガハ」並に収量性が高い。
・「タチナガハ」並に倒伏に強く、ダイズモザイク病に強い。
・ダイズシストセンチュウに弱く、黒根腐病に十分な抵抗性を持たない。
（２）品質特性
・子実は大粒で、障害粒の発生が少なく良質である。
・高蛋白質で豆腐加工適性が高く、味噌や大粒納豆にも適する。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：北陸、関東北部、東山地域
普及見込み：長野県で認定品種に採用（28年度普及見込み面積 500ha）

６．品種登録出願状況
平成２４年３月２９日　出願（受理）
平成２４年６月１９日　出願公表

７．予算区分
・農林水産省指定試験事業「寒冷地南部及び温暖地向け、高品質、病虫害複合抵抗性の大豆品種の育成」（平成6年～22年）
・新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業「食料自給率向を目指した豆類優良品種の育成」（平成23年）

系譜図

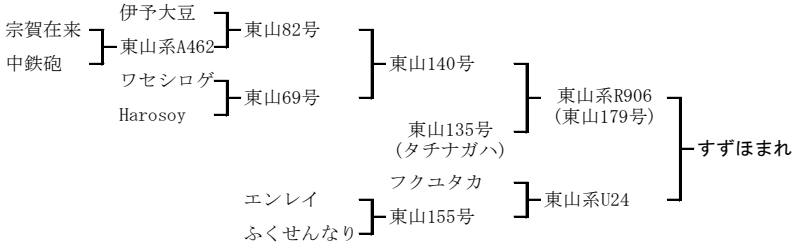


表1　生育特性　（長野県野菜花き試験場、平成19～23年、標準栽培）

品種名	開花期	成熟期	主茎長	最下着莢節位	生育中の障害				収量	
					倒伏	蔓化	ウイルス	青立ち	子実重	標準比
	（月日）		（cm）	（cm）					（kg/a）	（%）
すずほまれ	7.27	10.16	68	20.2	微	微	微	少	35.9	102
タチナガハ	7.27	10.13	62	17.8	微	微	微	少	35.2	100

表2　品質特性　（長野県野菜花き試験場、平成19～23年、標準栽培）

品種名	障害粒程度				粒形	子実の色			品質	百粒重	子実成分(%)		
	紫斑	褐斑	裂皮	しわ		種皮	臍	子葉		(g)	蛋白質	脂肪	全糖
すずほまれ	無	無	無	無	扁球	黄	黄	黄	中上	34.0	44.9	20.1	20.1
タチナガハ	無	無	微	微	扁球	黄	黄	黄	中上	35.2	41.3	20.9	21.7

表3　病虫害抵抗性、機械収穫適性および加工適性

品種名	病虫害抵抗性				機械収穫適性			加工適性			
	ﾀﾞｲｽﾞﾓｻﾞｲｸ病	ﾀﾞｲｽﾞｼｽﾄｾﾝﾁｭｳ	黒根腐病	紫斑病	最下着莢節位高	耐倒伏性	裂莢性	豆腐	味噌	煮豆	納豆
すずほまれ	強	弱	中	強	高	強	やや易	適	適	可	適
タチナガハ	中	弱	やや強	強	高	強	易	可	可	適	可

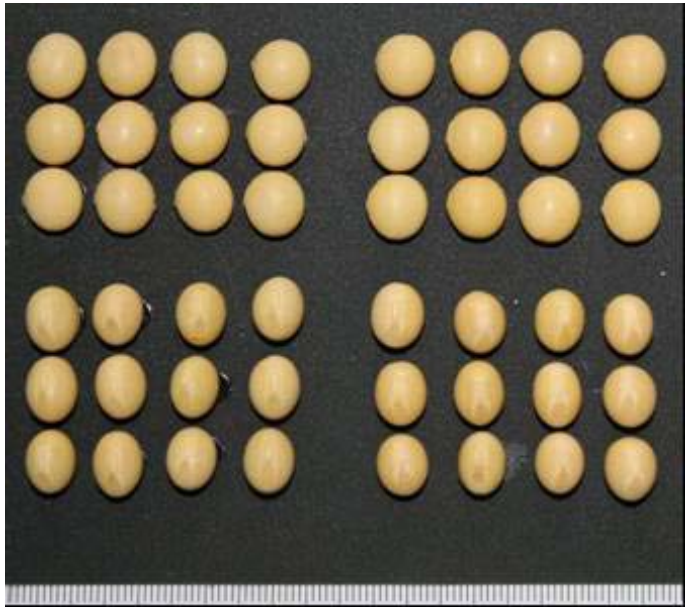
２枚目：写真

草　　姿



（左：「すずほまれ」、右：「タチナガハ」）

子　　実



（左：「すずほまれ」、右：「タチナガハ」）

《農林認定》　　さとうきび「KY99-176」

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
九州沖縄農業研究センター作物開発・利用研究領域
さとうきび育種グループ

２．来歴
育成期間：平成11年～23年　（13年間）
交 配 親：F161×RK89-1053
旧系統名：KY99-176

３．主要特性
・宮古島において夏植えで「NiF8」に比べ可製糖量が多い。
・耐倒伏性で一茎重が大きく脱葉性もよく収穫時の作業性が良い。
・黒穂病や葉焼病に対する抵抗性に優れる。

４．特性概要
（１）生育特性
・発芽は良いが萌芽性は他の品種に劣る。
・宮古島の夏植えにおいて一茎重の大きな茎重型品種で、「NiF8」に比べて多収である。
・収穫作業の効率に影響する脱葉性と耐倒伏性に優れる。
・黒穂病抵抗性、葉焼病抵抗性および梢頭部腐敗病抵抗性に優れる。
（２）品質特性
・甘蔗糖度、繊維分および可製糖率は現行普及品種の「NiF8」と同等で現行普及品種並みである。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：宮古地域
普及見込み：沖縄県で奨励品種に採用（普及見込み面積　300ha）

６．品種登録出願状況
平成 24 年 5 月 11 日　出願
平成 24 年 8 月 21 日　出願公表

７．予算区分
運営費交付金

系譜図

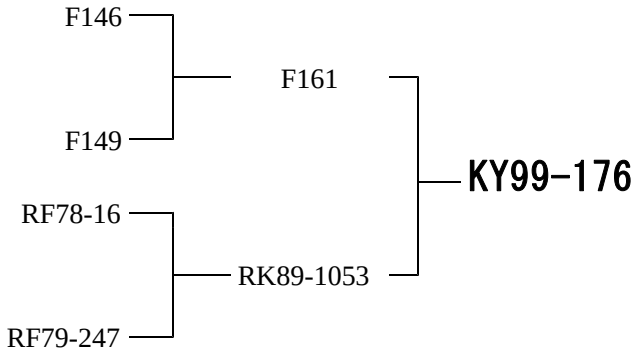


表１　生育特性

（過去の実績累年成績等による）

品種名又は系統名	発芽	萌芽	脱葉性	黒穂病抵抗性	葉焼病抵抗性	さび病抵抗性	風折抵抗性	耐倒伏性
KY99-176	良	不良	やや易	強～極強	強	中	やや強	強
NiF8	良	良	易	強	強	強	強	やや強
Ni27	良	やや良	易	中	強	強	中	やや強
宮古1号	良	良	難	極強	中	強	中	強

表２　収量特性

（沖縄県農業研究センター宮古島支所、H18-22 年度）

品種名又は系統名	原料茎数 (本/a)	原料茎長 (cm)	原料茎径 (mm)	一茎重 (g)	原料茎重 (kg/a)	可製糖量 (kg/a)
KY99-176	829	301	23.2	1550	1281	163
NiF8	714	281	23.2	1516	1089	133

表３　品質特性

（沖縄県農業研究センター宮古島支所、H18-22 年度）

品種名又は系統名	蔗汁糖度 (%)	純糖率 (%)	甘蔗糖度 (%)	繊維分 (%)	可製糖率 (%)
KY99-176	16.5	89.0	13.7	11.4	12.7
NiF8	15.9	87.9	13.3	11.3	12.2

２枚目：写真

草　　姿



左：「NiF8」、右：「KY99-176」）

原　料　茎



（左：「NiF8」、右：「KY99-176」）

《農林認定》　はくさい「あきめき」

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
野菜茶業研究所野菜育種・ゲノム研究領域
株式会社　日本農林社

２．来歴

育成期間：平成 18 年～ 22 年（5 年間）
交 配 親：T221RRR(♀)x V744RRr(♂)
旧系統名：はくさい安日交１号

３．主要特性

・根こぶ病に強度、黄化病に中程度の抵抗性を有し減農薬栽培が可能な品種である。
・「秋理想」とほぼ同等の良形質を有する。
・ハクサイの消費が拡大し始める「秋」と、兆しやはじまりを意味する「めく」を合わせて、「あきめき」として品種登録出願をした。

４．特性概要

（１）生育特性

・３種類の根こぶ病抵抗性遺伝子（*Crr1*、*Crr2*、*CRb*）を集積しているため、「CR 隆徳」と「SCR ひろ黄」の根こぶ病抵抗性の違いに基づく菌系の分類ではグループ１～４群すべてに抵抗性を示す初めての実用品種である。
・「秋理想」と同等の黄化病抵抗性を示す。

（２）品質特性

・球長約 30cm、重さ約 3kg の黄芯のハクサイである。
・「秋理想」とほぼ同様の形質を示す。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道～九州
普及見込み：茨城県を中心に 150ha（平成 24 年）～ 300ha(平成 26 年)

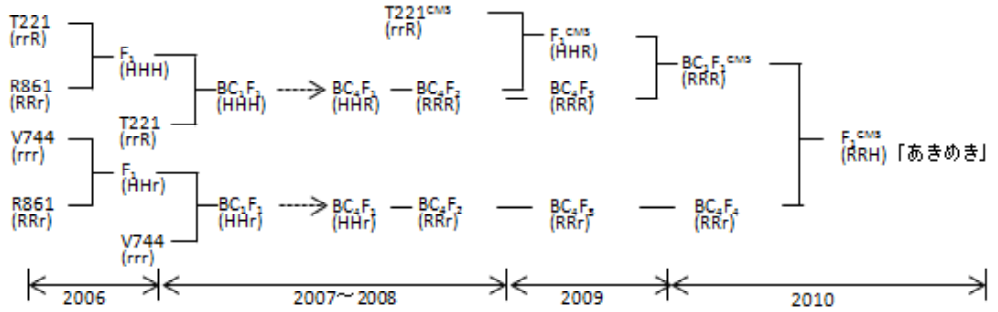
６．品種登録出願状況

平成 23 年 6 月　6 日　出願
平成 23 年 8 月　19 日　出願公表

７．予算区分

・農林水産省委託プロジェクト「新農業展開プロジェクト」(平成 19-21 年、課題番号 4030「モデル植物のゲノム情報を利用した DNA マーカー育種によるアブラナ科野菜の優良実用品種の育成」)

系譜図



T221 と V744 はそれぞれ「秋理想」の母親と父親、() 内は根こぶ病抵抗性遺伝子、*Crr1*、*Crr2*、*CRb* の遺伝子型を順に標記し、R：ホモ、H：ヘテロ、r：なし、RRH は *Crr1* と *Crr2* をホモ、*CR b* をヘテロ、CMS は細胞質雄性不稔を示す。点線矢印は反復親を連続戻し交雑したことを示す。

表１　生育特性

4グループの根こぶ病菌に対する「あきめき」の抵抗性(三重県津市、2010年度)

品種名	グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
あきめき	R	R	R	R
CR隆徳、秋理想	S	S	R	R
SCRひろ黄	S	R	S	R
無双	S	S	S	S

Hatakeyamaら（2004）のグループ分けに従った、R：抵抗性、S：罹病性

「あきめき」の黄化病抵抗性（茨城県牛久市、2010年度）

品種名	供試個体数	発病株率	平均発病指数
あきめき	14	14.3%	0.18
秋理想	48	16.7%	0.13
黄久娘65	90	83.3%	2.03
黄久娘80	81	53.1%	0.81

表２　品質特性

品種名	球長 (cm)	球幅 (cm)	重量 (g)	しまり程度	球内色
あきめき	31.1	17.8	3108	2.9	黄色
秋理想	31.3	16.6	3058	3.0	黄色

茨城県稲敷郡阿見町、2010年度

２枚目：写真



生育状況（茨城県稲敷郡阿見町、2010 年）



収穫物（左：外部、右：内部、茨城県稲敷郡阿見町、2010 年）



草姿（茨城県稲敷郡阿見町、2010 年）



根こぶ病多発圃場（左：あきめき、右：罹病性品種、茨城県結城市、2011 年）

《農林認定》　　かぼちゃ「ＴＣ２Ａ」

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター水田作研究領域
株式会社渡辺採種場

２．来歴

育成期間：平成 8 年～ 17 年　（10 年間）
交 配 親：北海 1 号（♂）× BHA（♀）
旧系統名：ＴＣ２Ａ

３．主要特性

・短節間性があり、側枝数が少ないため、整枝・誘引が不要。
・果実が株もと近くに着くため、収穫の省力化が可能。
・乾物率が高く、糖度も高いため、良食感・良食味である。
・品種 TC2A の由来は、F1 の交配組合せの Test Cross ２に由来する。
　Ａは種子親が BHA で花粉親が北海 1 号の組合せを意味している。

４．特性概要

（１）生育特性

・主枝（親蔓）は節間が詰まる短節間性を示すが、開花期頃から節間が伸長し、普通草姿となる。側枝数は「えびす」よりも少ない。
・開花時期は「えびす」よりやや早い。
・着果節位は「えびす」より低く、株もと近くに着果する。
・収量性は「えびす」よりも高い。
・うどんこ病の発生程度は「えびす」と同程度である。

（２）品質特性

・果実重量は「えびす」並の 1.8 ～ 2.0 ｋ g 程度である。
・果形は花痕部が凸となる心臓形で、果皮は濃緑で緑のすじ模様がある。
・果肉は橙黄で、肉厚である。
・乾物率、糖度は「えびす」より高く、高粉質で高糖度である。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：全国のかぼちゃ生産地域
普及見込み：北海道で普及奨励事項（優良品種）に採用。北海道、九州・沖縄を中心に普及が見込まれる（普及見込み　面積 200ha）

６．品種登録出願状況

平成 18 年 5 月 30 日　出願
平成 20 年 12 月 17 日　品種登録

７．予算区分

農林水産省委託事業「超省力園芸」（省力適性カボチャ品種の育成）、国産野菜の持続的生産技術の開発（短節間カボチャ系統の育成）、「新鮮でおいしい『ブランド・ニッポン』農産物提供のための総合研究」（カボチャの短節間性発現の変動要因の解明と短節間系統の育成）

系譜図

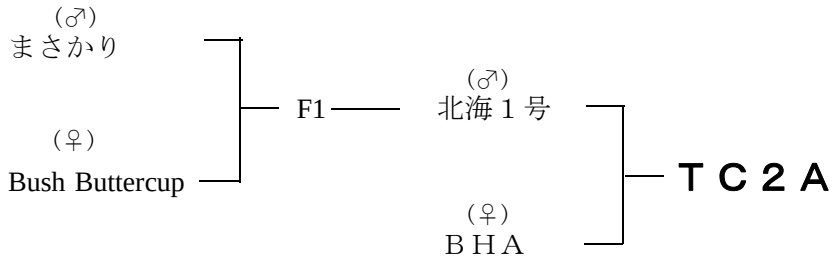


表１　生育特性（北海道農業研究センター札幌、平成16年～18年）

品種	蔓長		側枝数	開花日		着果	総収量	規格内	うどんこ病
	10節	15節		雌花	雄花	節位		収量	発生程度
	(cm)	(cm)	(本)				(kg/a)	(kg/a)	1(少)~5(多)
TC2A	17.8	85.7	1.6	6/30	7/3	12.2	262.3	215.3	3.3
えびす	55.2	125.3	4.4	7/3	7/5	15.6	184.6	154.8	2.7

開花日、うどんこ病発生程度は平成18~20年の平均.

「TC2A」は株間60cm、畝間150cm、主枝1本仕立て.「えびす」は株間60cm、畝間300cm、側枝2本仕立て.

表２　品質特性（北海道農業研究センター札幌、平成16年～18年）

品種	1果重	果形	果皮色	果面模様	果肉色	果肉厚	乾物率	Brix	肉質	食味
	(kg)					(mm)	(%)			
TC2A	1.95	心臓形	濃緑	すじ・緑/緑	橙黄	29.9	22.0	13.4	粉質	3.9
えびす	1.70	扁円	緑	すじ・斑点/緑	濃黄	27.1	17.2	10.6	粘~粉質	3.4

食味：1(不良)～5(良)．パネル 38 名(男 22 名、女 16 名：平成 18 年度調査)

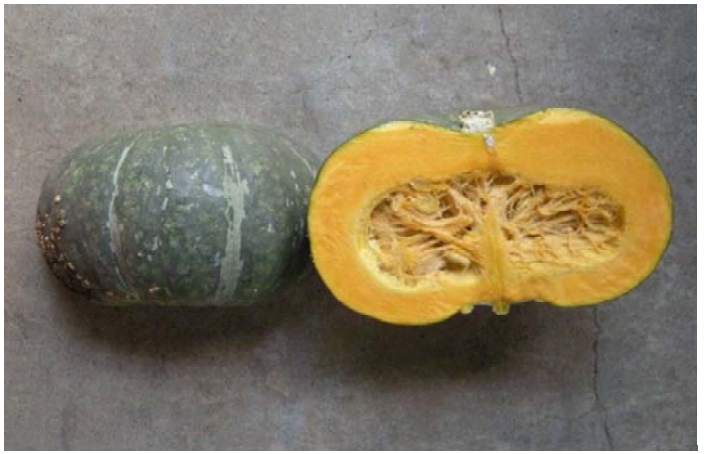
２枚目：写真

草　　姿



（左：「ＴＣ２Ａ」、右：「えびす」）

果　　実





（上：「えびす」、下：「ＴＣ２Ａ」）

《農林認定》　かんきつ「みはや」

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所　カンキツ研究領域

２．来歴
育成期間：平成１０～平成２３年　（１４年間）
交 配 親：津之望× No.1408
旧系統名：カンキツ口之津５０号

３．主要特性
・11月下旬に成熟する早生品種である。
・果皮が赤橙色で、浮き皮の発生がなく、ウンシュウミカンと区別性がある。
・糖度が高く、酸味が少なく、芳香があり、食味がよい。
・β-クリプトキサンチンをウンシュウミカンと同程度に多く含む。
・品種名は、果皮が赤く美しく、成熟期が早いことから命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・樹勢は中程度、樹姿は直立性と開張性の中間である。
・トゲの発生は少なく、短い。
・そうか病の発生はなく、かいよう病は軽度の発生がみられる。

（２）品質特性
・果実は 190 ｇ程度で、ウンシュウミカンより大果である。
・果皮は赤橙色で、「興津早生」よりやや剥皮しにくいが、浮き皮が発生しない。
・11月下旬に成熟期を迎え、糖度は 12%程度と高く、酸含量は 0.60%と低く、芳香があり、食味に優れる。
・じょうのう膜が軟らかく、種なし果が多く、食べやすい。
・機能性成分のβ-クリプトキサンチンを果肉100gあたり1.48mgと「興津早生」と同程度に多く含む。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：わが国のほとんどのカンキツ栽培地帯で栽培可能である。
普及見込み：愛知県、熊本県、鹿児島県、福岡県、大分県の試験地において有望と評価されており、これらの産地から普及が見込まれる。（許諾苗木生産業者数：8 県、37 業者）

６．品種登録出願状況
平成２４年３月１６日　品種登録出願公表

７．予算区分
運営費交付金

系譜図

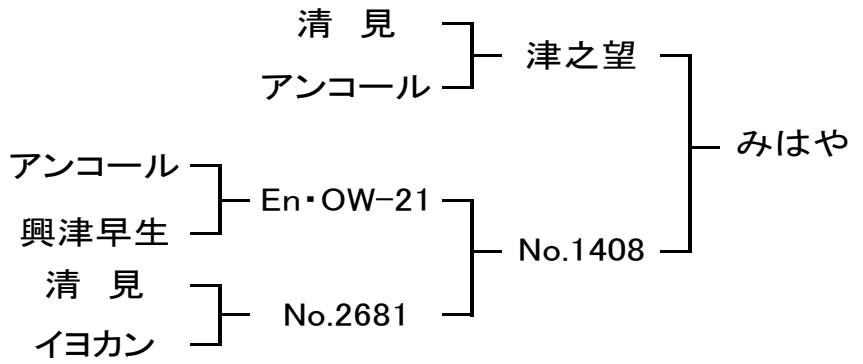


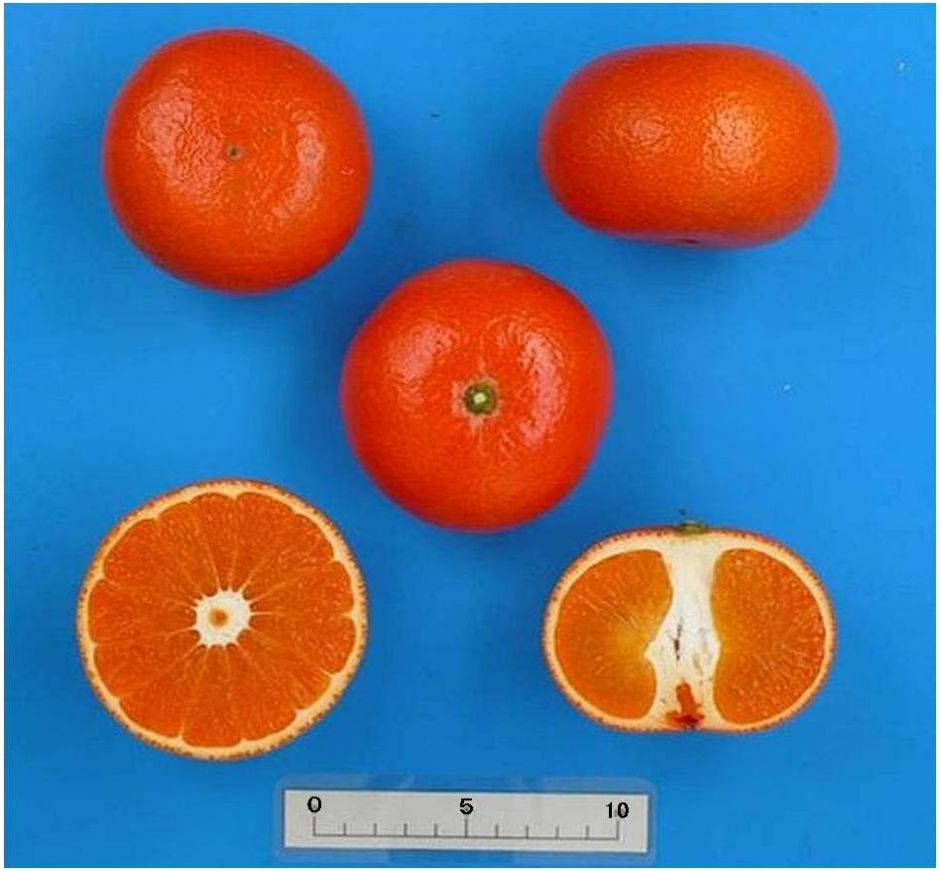
表1 「みはや」の樹体の特性および成熟期　（農研機構果樹研究所カンキツ研究口之津拠点　2010年）

品種	樹勢	樹姿	枝梢のとげ		そうか病発生程度	かいよう病発生程度	成熟期（月旬）
			多少	長さ			
みはや	中	中間	少	短	無	軽	11下
興津早生	中	開張	無	－	無	無	11中
麗紅	中	中間	少	短	無	無	1下

表2　「みはや」の果実特性　（農研機構果樹研究所カンキツ研究口之津拠点　2010年）

品種	果実重（ｇ）	果皮色	剥皮のしやすさ	浮き皮の発生	じょうのう膜の硬軟	糖度（屈折計示度%）	クエン酸含量（%）	無核果率（%）	β-クリプトキサンチン含量（mg/100g）
みはや	195	赤橙	やや易	無	やや軟	12.2	0.60	80	1.48
興津早生	136	濃橙	易	少	軟	9.9	0.99	100	1.53
麗紅	197	濃橙	易	無	やや軟	10.9	1.28	40	－

果実特性の調査は12月10日に実施
β-クリプトキサンチン含量は2006～2008年の３年間の平均値



「みはや」の果実



「みはや」の結実状態

《農林認定》　　かんきつ「あすみ」

１．育成機関
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
果樹研究所　カンキツ研究領域

２．来歴
育成期間：平成４～平成２３年　（１９年間）
交 配 親：カンキツ興津４６号×はるみ
旧系統名：カンキツ興津５８号

３．主要特性
・1月下旬～２月上旬に成熟する中生品種である。
・糖度が極めて高く、芳香があり、食味がたいへん優れる。
・β-クリプトキサンチンをウンシュウミカンと同程度に多く含む。
・品種名は、「はるみ」の子であることと、明日のカンキツ産業を担う品種になるよう期待を込めて命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・樹勢は中程度、樹姿は直立性と開張性の中間である。
・トゲの発生は多く、長い。
・そうか病に対しては抵抗性があるが、かいよう病には弱い。
・隔年結果性は「せとか」並である。

（２）品質特性
・果実は 150 g程度で、果皮は橙色で薄く、剥皮のしやすさは中程度である。浮皮の発生はない。
・１月下旬～２月上旬に成熟期を迎え、糖度は 15%以上と極めて高く、酸含量は1.0%程度となり食味が極めて優れる。
・機能性成分のβ-クリプトキサンチンを果肉100gあたり1.66mgと「興津早生」と同程度に多く含む。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：高糖度果実生産が可能な土壌条件の適応範囲は広いが、かいよう病の発生防止と着色改善のために施設栽培に向いている。

普及見込み：大分県、宮崎県、長崎県、福岡県の試験地において有望と評価されており、これらの産地から普及が見込まれる。
（許諾苗木生産業者数：8 県、34 業者）

６．品種登録出願状況
平成２４年３月１６日　品種登録出願公表

７．予算区分
運営費交付金

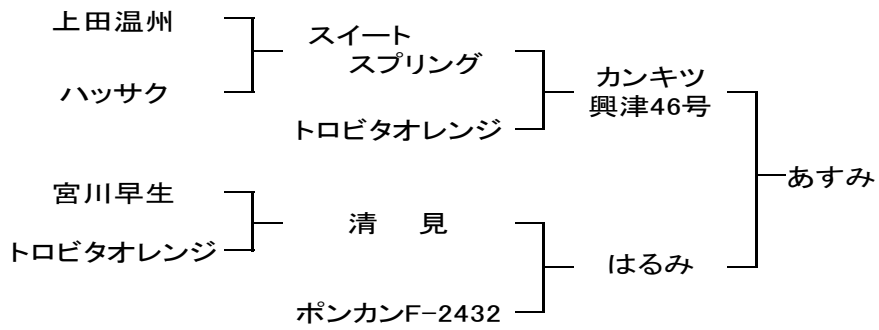
系譜図


表1 「あすみ」の樹体の特性
（農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点　2009～2010年　露地栽培）

品種	樹勢	樹姿	枝梢のとげ		そうか病の発生程度	かいよう病の発生程度	隔年結果性
			多少	長さ			
あすみ	中	中	多	長	無	中	中
はるみ	中	やや直立	少	短	無	軽	高
せとか	中	中	多	中	無	無	中

表2　「あすみ」の果実特性
（農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点　2009～2010年　露地栽培）

品種	果実重(g)	剥皮のしやすさ	浮皮の発生	糖度(屈折計示度%)	クエン酸含量(%)	成熟期(月旬)	β-クリプトキサンチン含量(mg/100g)
あすみ	151	中	無	15.7	1.03	1下～２上	1.66
はるみ	206	易	中	12.2	1.10	１下	－
せとか	194	やや易	無	14.2	1.71	２下	―

果実特性の調査は「あすみ」、「はるみ」は1月下旬に、「せとか」は2月下旬に実施
β-クリプトキサンチン含量は2006～2008年の３年間の平均値で示した。　なお、同時に測定した「興津早生」の含量は1.53mg/100gである。



「あすみ」の果実



「あすみ」の結実状態

《農林認定》　西洋なし「ジェイドスイート」

１．育成機関

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
北海道農業研究センター　水田作研究領域

２．来歴

育成期間：平成４年～２２年　（１９年間）
交 配 親：マルゲリット・マリーラ×ブランディワイン
旧系統名：セイヨウナシ札幌１号

３．主要特性

・果実重 290 ｇ程度と大きく、果皮黄緑色で外観良好な早生品種である。
・糖度は 13 ～ 15 %程度、酸度は 0.1 ～ 0.2 ｇ/100ml 程度で、極多汁で甘味が多く食味が優れる
・名称は収穫時の色が翡翠（翡翠：英名　ジェイド）に似た黄緑色で、果実糖度が高く甘いことにちなむ。

４．特性概要

（１）生育特性

・育成地（札幌市）で「バートレット」とほぼ同時期の９月上中旬に収穫適期となる早生品種である。
・樹勢は中程度で、初期収量は「ブランディワイン」と同程度である
・育成地でのセイヨウナシの通常防除下では、問題となる病害虫の発生は観察されていない。
・開花盛期は「バートレット」とほぼ同時期である。
・「バートレット」、「ブランディワイン」、「ラ・フランス」と交配和合であるが、「オーロラ」、「プレコース」とは交配不和合である。

（２）品質特性

・果実はびん形を呈し、果実重は 290 ｇ程度、果皮は黄緑色で外観は美麗である。果皮がやや弱いのでていねいな取り扱いを要する。
・追熟は「バートレット」と同様に、温度を 15 ～ 20 ℃恒温とすることで、容易に行うことができる。
・糖度は 13 ～ 15 %程度、酸度は 0.1 ～ 0.2 ｇ/100ml 程度で、極多汁で甘味が多く食味が優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先

適地：北海道から長野県までの寒冷地のセイヨウナシ生産地域
普及見込み：上記地域における高品質早生品種として普及が見込まれる。（許諾苗木生産業者数：6 県、12 業者）

６．品種登録出願状況

平成２３年３月１０日　出願
平成２３年６月２８日　出願公表

７．予算区分

運営費交付金

系譜図

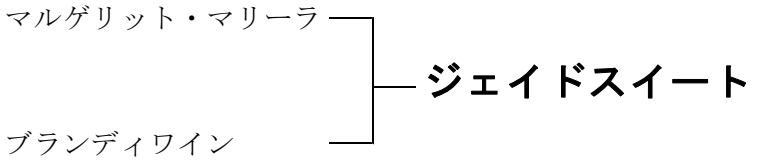


表１　生育特性　（北海道農研（札幌市）2007 ～ 2009 年）

品種・系統	樹姿	樹勢	短果枝の着生	えき花芽の着生	開花盛期	収穫適期	収量 (kg/樹)	病害虫の発生
ジェイドスイート	立	中	中	中	5月中下旬	9月上中旬	9.9	普通
バートレット	ﾔﾔ開張	強	中	多	5月中下旬	9月上中旬	12.8	普通
ブランディワイン	ﾔﾔ開張	強	中	少	5月中下旬	9月中下旬	8.8	普通
ラ・フランス	斜上	ﾔﾔ強	中	少	5月中下旬	10月下旬	6.3	普通

樹齢 7 ～ 9 年生（ナシ実生台）

表２　品質特性　（北海道農研（札幌市）2007 ～ 2009 年）

品種・系統	果形	果実重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	適熟時の硬度(lbs)z	果汁の多少	肉質	追熟の難易	日持ちy
ジェイドスイート	びん	286	14.9	0.15	2.0	極多	密	易	3日
バートレット	びん	270	11.9	0.23	2.1	ﾔﾔ多	ﾔﾔ粗	易	3日
ブランディワイン	円錐	196	14.8	0.18	1.6	多	中	ﾔﾔ難	5日
ラ・フランス	倒卵	180	16.2	0.23	2.3	多	ﾔﾔ密	易	10日

z ：追熟後の食べ頃の果肉硬度
y ：追熟果実の５℃冷蔵条件での日持ち

２枚目：写真

樹　　姿



果　実　結　実　状　況（収穫期）



《農林認定》　びわ「はるたより」

１．育成機関
長崎県農林技術開発センター果樹研究部門ビワ・落葉果樹研究室

２．来歴
育成期間：昭和63年～平成24年　（24年間）
交 配 親 ：長崎早生×77-856
旧系統名：ビワ長崎14号

３．主要特性
・果実重は55～60ｇで「長崎早生」よりも大果である。
・「長崎早生」よりやや遅く成熟する早生種で、施設栽培向きである。
・果肉が比較的軟らかく、糖度が高く、食味が優れる。
・果皮障害が少ないとともに日持ち性も優れる。
・ビワがんしゅ病に極めて強い。
・名称はハウスびわとして春の訪れを告げることをイメージして命名した。

４．特性概要
（１）生育特性
・樹勢は強く、樹姿はやや開張性である。
・着花率は高く、豊産性である。
・ビワがんしゅ病のすべてのグループ菌に抵抗性で、がんしゅ病はほとんど発生しない。

（２）品質特性
・育成地（長崎県大村市）における施設栽培での熟期は4月中旬で「長崎早生」よりやや遅い。
・果実は短楕円形で、果皮および果肉は橙黄色である。
・果実重は55～60ｇで、「長崎早生」よりも大果となり、果肉も厚い。
・果肉は比較的軟らかく、糖度は「長崎早生」に比べて同等か高く、食味良好である。
・施設栽培では果皮障害が少なく外観良好で、日持ち性も優れる。

５．栽培適地及び普及見込み先
適地：西日本のびわ栽培地域
普及見込み：長崎県、鹿児島県　（普及対象面積200ha）

６．品種登録出願状況
平成24年10月4日　品種登録出願

７．予算区分
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化に対応した高品質ビワ新品種の開発と温暖化進行後の適地変化予測」

系譜図

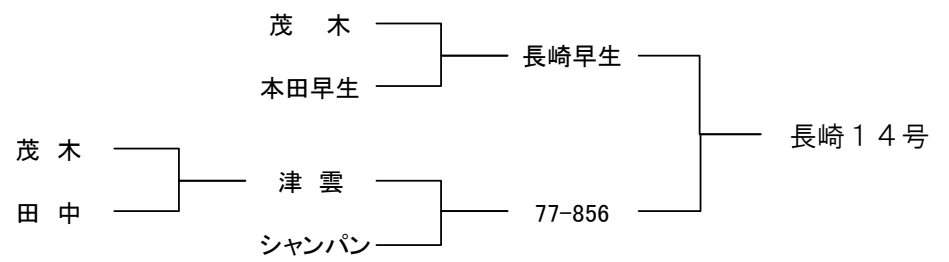


表1　「長崎14号」の樹体および果実特性（長崎農技セ、施設栽培、2008～2010年の平均）

品種･系統	樹姿	樹勢	中心枝着花率 (%)	熟期 (月.日)	果形	果皮色	果実重 (g)	果肉の厚さ (mm)	果肉硬度
長崎14号	ﾔﾔ開張	強	96	4.19	短楕円	橙黄	56.5	9.3	ﾔﾔ軟～中
長崎早生	直立	ﾔﾔ強	93	4.12	長卵	橙黄	44.6	8.6	中

表1　つづき

品種･系統	食味	糖度 (%)	酸含量 (g/100ml)	果皮障害 へそ青症	へそ黒症	そばかす症	裂果	紫斑症	緑斑症
長崎14号	良	13.2	0.17	0.0	0.1	3.3	2.8	0.2	0.0
長崎早生	ﾔﾔ良	12.5	0.21	7.5	8.6	3.1	2.4	0.6	0.0

注）果皮障害は各果実の発生程度を無、軽および甚のいずれかに分類し、
｛（軽の果数）×1＋（甚の果数）×3｝／（調査果数×3）×100として算出

表2　「長崎14号」のがんしゅ病抵抗性及び日持ち性(長崎農技セ)

品種	各ｸﾞﾙｰﾌﾟに対する抵抗性 A菌	B菌	C菌	発病新梢率 (%)	日持ち性 減量率(%)	しなび	果汁の多少	食味
長崎14号	R	R	R	0.3	11.4	軽	中	中
長崎早生	S	S	S	6.5	13.9	甚	少	ﾔﾔ不良
茂　木	S	S	S	5.9	－	－	－	－

注）抵抗性は接種検定による。R：抵抗性、S：罹病性。発病新梢率は露地栽培で2009年調査。
日持ち性は2010年に施設栽培の果実を25℃で1週間貯蔵後に調査。



長崎１４号の結実状況



長崎１４号の果実